

科目名	成人看護援助論Ⅴ				
担当講師名	紺野 知亜紀	所属・役職	主查看護教員	資格・免許	看護師
担当講師名	田中 千恵子	所属・役職	看護教員	資格・免許	看護師
授業形態	講義・演習	単位数・時間数	1単位 30 時間	開講年次	2 学年前期
講義の概要	<p>【大人を看護するための看護過程】</p> <p>○看護の現象には様々な成因が考えられ、成因間にも色々な関連性が見出される。看護行為の成果を実際の行動レベルでみるという意味で、関連図や NANDA-I 看護診断を書くことは人間を総合的にみていくことになる。関連図や NANDA-I と看護ケアの関係は、看護過程のどの段階においても、その都度見直されることによって、看護過程を適切に効率的に推進することができる。そのためその方法を学習する。</p> <p>○事例を通して看護過程を演習し、一連の展開方法、対象に必要な看護を導き出す考え方の筋道を学習する。</p>				
到達目標	○健康障害を抱える成人期にある対象とその家族に対して、各経過に応じた看護の特徴を理解し、実践できる能力を養う				
講義回数	講義内容				
1～5	<p>1. 成人期の全身麻酔で開腹術を受ける患者（急性期）の看護展開</p> <p>1) 病態関連図（シークエンス）</p> <p>2) 術後合併症のリスクと時間経過に合わせたアセスメントの視点</p> <p>3) 看護上の問題と優先順位</p> <p>4) 術後合併症に合わせた看護計画の立案と目標設定</p> <p>5) 実施結果・評価の視点</p> <p>*成人・老年看護学実習Ⅰを想定した内容とする</p>				講義・演習
6～10	<p>2. 成人期の慢性期・慢性疾患患者の看護展開</p> <p>1) NANDA-I</p> <p>2) 看護モデルを踏まえたアセスメントの視点</p> <p>3) 看護上の問題と優先順位</p> <p>4) 病と共存しながら生活を継続するための看護計画の立案と目標設定</p> <p>*成人・老年看護学実習Ⅱを想定した内容とする</p>				講義・演習
11～15	<p>3. 成人・老年期の終末期患者の看護展開</p> <p>1) NANDA-I</p> <p>2) 人生の最終段階に合わせたアセスメントの視点</p> <p>3) 看護上の問題と優先順位</p> <p>4) 個別性と人生の最終段階に合わせた看護計画の立案と目標設定</p> <p>*成人・老年看護学実習Ⅲを想定した内容とする</p>				講義・演習
教科書等	<p>教科書：「成人看護学総論」 医学書院 「エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図」 中央法規 「エビデンスに基づく症状別看護ケア関連図」 中央法規 「よくわかる周手術期看護」 学研 「臨床外科看護総論・各論」 医学書院 「緩和ケア」 医学書院 各疾患の教科書 医学書院 参考図書：「成人看護実習ガイドⅠ 急性期・周手術期」 照林社 「高齢者と成人の周手術期看護2 術中・術後の生体反応と急性期看護」 医師薬出版株式会社 「基礎看護学 看護過程」の授業で使用した資料 適宜、資料配布</p>				
成績評価方法	出席状況、授業参加状況、課題により総合的に評価する。				
履修上の留意点	既習の病態生理学、看護過程、共通看護技術をふまえて授業に臨む。				
特記事項					